

# 日本体操学会 会報 vol.15

2018.12 発行

## ご挨拶



日本体操学会会長 金子嘉徳

第18回学会大会開催にあたりましては、会員並びに関係団体の皆様には多方面からのご支援、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。

体操は、多様性を持った身体活動であるという特長から、現代の「人生100年時代」におけるどのようなライフステージにも対応が可能です。そこで第18回大会では、「人生100年時代」を踏まえて体操を縦断的にとらえ、基調講演、シンポジウム、発表、情報交換会を開催いたしました。それらを通して、各ライフステージに対応する体操の多様性が共有できたのではないかと期待しています。また、前回創設されましたポスター実践報告部門にも、多くの皆様に参加していただき、それぞれの発表を通して多様な実践活動を共有することができました。これらの共有が、皆様の次の研究のヒントや、今後の実践活動の一助となりますことを願っています。

本会報には、これらの第18回大会についての報告内容がまとまっていますので、今回はご出席いただけなかった皆様にはご覧いただき、来年はぜひ学会に足をお運びいただいて、発表を共有できたらと願っております。また、ご出席いただいた皆様にも今一度思い返していただき、体操の幅をさらに広げる機会としていただければ幸いです。

結びに、今期をもちまして会長を交代することとなりました。在任期間中は、皆様には大変お世話になりありがとうございました。来期からは、新会長のもと新たな役員の皆様が活動してくださいます。今後とも変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 日本体操学会第18回学会大会報告

第18回大会は「人生100年時代の健康づくりを求めて～体操の多様性を基盤に考える～」のテーマで女子栄養大学坂戸キャンパスにて開催された。第1日目は58名、第2日目は68名（一般参加者を除く）の参加があり、盛会の中終了した。

- 期間 平成30年9月14日(金)・15日(土)
- 会場 女子栄養大学坂戸キャンパス
- 主催：日本体操学会
- 後援：日本学術会議・(公財)日本体操協会 坂戸市・鶴ヶ島市・越生町・埼玉新聞社・女子栄養大学
- 協力：坂戸市民みんなの健康づくりサポーター「元気にし隊」

学会プログラム（日本体操学会 HP 参照）

<https://18th-convention.taisou.jp/wp-content/uploads/2018/08/18th-program-small.pdf>



## オープニングイベント

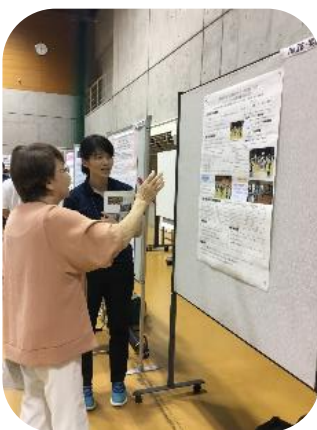
本大会の幕開けは、参加者全員で体を動かす「みんなで体操」であった。女子栄養大学の校歌にあわせた「栄大体操」、埼玉県美里町のご当地体操「ミムリン・エアロビクス」について女子栄養大学の金子嘉徳氏、大竹祐佳氏より紹介があった。

さらに、テレビ体操指導者である鈴木大輔氏の指導で「ラジオ体操」を行った。動いて学ぶ体操学会にふさわしいオープニングであった。



## ポスター発表・インパクトプレゼンテーション

ポスター研究発表 8 題、ポスター実践報告 23 題、合計 31 題の発表が行われた。発表者が日頃取り組んでいる体操の研究や実践について、参会者とポスター前でディスカッションをしたり、情報交換をしたりする時間となった。実際に体験できる発表もあり、会場となった体育館全体が体操の「知」を深める雰囲気になった。



## 平成 29 年度公募研究プロジェクト発表

平成 29 年度日本体操学会より助成を受けたプロジェクト 1 題（研究代表：鈴木邦明氏）の研究報告がなされた。研究題目は「幼稚園教育要領での鬼ごっこの扱いの変遷」で、鬼ごっこ・鬼遊びが主に戦後の学習指導要領・幼稚園教育要領でどのように明記され、扱われてきたのかを調査したものであった。昭和 30 年までは鬼ごっこが指導要領に明記されていたが、時代の移り変わりとともに昭和後期には示されなくなったこと、加えて平成 29 年度改訂の新指導要領からは明示されていること等を挙げ、それらの背景や考察について述べられた。

## 総会

平成 30 年度の日本体操学会総会が、第 18 回大会 1 日目の最後に開催された。議事、報告ともに滞りなく進み、閉会した。



## 分科会活動 <キッズ分科会><学校体育分科会><中・高齢者分科会>

分科会活動では、「多世代での運動の必要性について」「多世代で楽しめる体操（運動）とは」「多世代での体操（運動）指導時に配慮すべき点とは」という 3 つの共通の話題について、<キッズ分科会><学校体育分科会><中・高齢者分科会>に分かれ、それぞれの視点から体操の実践と意見交換が行われた。

最後に、各分科会のリーダーである長谷川聖修氏・大塚隆氏・金子嘉徳氏より、分科会活動での実践内容と、KJ 法をもとに集約された 3 つの共通の話題に関する意見の報告が行われた。

### <キッズ分科会>

しかのてつや氏が創作したオリジナルソング「ふっきっき」に合わせたタオルを使用した体操を軸として、子どもを対象とした体操の多世代への転用可能性について検討された。

また、鈴木玲子氏より「むすんでひらいて」の替え歌に合わせたタオルを用いた体操の紹介が行われた。多世代で活動する際には、活動内容に対する嗜好性や体力等の個人差・安全性・活動のレベルに配慮する必要があるという意見がまとめられた。



### <学校体育分科会>

住本純氏より、ソフトジムを使用した体づくり運動の授業単位について、小学校での実践事例の映像紹介とともに体験が行われた。ソフトジムの「握みやすさ」「サイズ感」「簡便性」といった用具特性を利用した運動内容が紹介されるとともに、運動の「楽しさ」が重要であることへの提案がなされた。



### <中・高齢者分科会>

現場実践の共有として、吉中康子氏による中・高齢者を対象とした体操が紹介された。

また全体の意見として、コミュニケーションツールや健康増進のために多世代での運動が必要であること、その際の内容には、昔遊びや音楽ストレッチ等が相応しいこと、指導の際には安全性や継続性等への配慮が必要であるという意見が述べられた。



## ワークショップ

### 「世代間交流できる体操(運動)～お年寄りと子供で楽しむ～」

「世代間交流できる体操(運動)～お年寄りと子供で楽しむ～」をテーマに、各分科会での活動内容を踏まえた体操の提案が行われた。

キッズ分科会からは、しかのてつや氏のオリジナルソング「ふっきっき」に合わせたタオルを使用した体操の実践例として、早川ひろみ氏からは親子を対象とした事例、佐々木弘子氏からは高齢者を対象とした事例が紹介された。また鈴木玲子氏より「むすんでひらいて」の替え歌に合わせたタオルを用いた体操の紹介が行われ、グループに分かれて体操を実践した。学校体育分科会からは、沖田祐蔵氏よりソフトジムを使用した体づくり運動の運動の紹介が行われ、ペアやグループでの運動が展開された。中・高齢者分科会からは、金子嘉徳氏より子どもと高齢者で動く実践事例として、ペットボトルキャップを活用したオリジナル用具「キャップバッグ」を用いた運動が紹介された。



## 基調講演「新栄養学による健康寿命の実現」

基調講演、シンポジウムに先立ち、大会名誉会長である香川明夫女子栄養大学長、大会顧問である石川清坂戸市長より挨拶があった。

基調講演では、香川靖雄女子栄養大学副学長による「新栄養学による健康寿命の実現」の講演があった。健康寿命の延伸にむけた時間栄養学、遺伝子栄養学、精神栄養学による新栄養学による可能性と運動及び体操領域の重要性をテーマにした講演を参加者は熱心に聴講していた。



## シンポジウム

### 「人生 100 年時代の健康づくりを求めて健康づくり専門誌が体操に期待したいこと」

シンポジウムは「人生 100 年時代の健康づくりを求めて健康づくり専門誌が体操に期待したいこと」というテーマについて小森典広氏（ベースボール・マガジン社フォトサービス部）、嶋津由美子氏（(株)世界文化社 CS 部長・新雑誌編集長）、浜岡さおり氏（女子栄養大学出版部「栄養と料理」編集長）が各出版社での健康情報に関する取り組みとそれぞれの立場からの体操領域への期待と可能性について発表があった。各発表後はフロアからの質疑応答や意見交換が活発になされていた。



## 懇親会(情報交換会)

学会大会の締めくくりとして女子栄養大学レストラン松柏軒による食事を囲みながら学会大会の参加者が集い、和やかに情報交換会を含めた懇親会が開催された。



### 【次回学会大会のお知らせ】

日本体操学会第 19 回大会

日程：2019 年 9 月 21 日（土）・22 日（日）

会場：新潟大学五十嵐キャンパス

執筆担当 日本体操学会広報委員会